

7月24日の早朝の今、森はNHKで2021年にずれ込んだ「2020東京オリンピック」の開会式の録画を見ている。コロナに翻弄された厳しいオリンピックである。しかし、このオリンピックは、招致の段階からいろいろな批判があり、その批判がすべて当たっていたことを鮮明に証明してしまった。「強欲な人間たちによる」「思想も思いやりもない」「東北の被災者を利用した」「人権感覚無視で」「日本国の財源を浪費した」「恥ずべき」「オリンピック史上最低の位置づけがなされそう」オリンピックになってしまったように思われる。懸命に頑張ってきたスポーツ選手たちには実に気の毒に思うが、残念ながら恥ずべき日本の指導者の醜態（しゅうたい=みにくい姿）を世界中に知らしめることになってしまった。今回のオリンピックへの世界からの評価は、今後の日本にとっても大きな悪影響を与えると思う。今回のASSETSでは、残念だが、このオリンピックに関するいろいろな批判的な記事を張り付けた。今、目の前のテレビで見ている開会式の映像もあまりにもひどすぎて目を覆いたくなる。ちなみに森が評価する最高のオリンピックは、2012年の「ロンドンオリンピック」である。歴史も音楽も映画も文化もそしてスポーツも「祭典」にふさわしいものだった。ネットでいつでも見ることができるので、ぜひ見てほしい。ただ高校での「世界史」の深い知識がないとその素晴らしさは理解できないかもしれない。

【下】この国の指導者達には、女性や身障者や経済的に苦しんでいる人たちやいじめにあっている人たちの苦しみが理解できないのです。一言で言えば「人権感覚がない」のです。なぜだかわかりますか？答えは簡単です。保守的な政治家たちや高級官僚、そして広く富裕層や安定した大企業に勤めている人たちの多くが、日々豊かに生活をしており、他者について考える必要もないし、困っている他者との接点もないし、その人たちの気持ちなど全く分からないからなのです。またかれら以外でこのコロナ禍でオリンピックを無批判に歓迎している人たちは「無邪気な愚か者」としか表現できません。

あなたは中学3年生の「公民」で「基本的人権」について学びます。法律家を目指していた館長は「憲法」にとっても詳しいです。志成館にいる間に「真の人権感覚」をしっかりと身につけてください。館長が熱弁をふるいます。(笑)。本当に残念なことに、日本の指導者たちの驚くほどの無能ぶりが世界にばれてしまいました。(泣)。



【左】あなた達にお願いしたいのは「歴史に(を)じゃないよ)学ばず、他者に敬意を持たず、地球という狭い環境を壊し続ける、愚かな人間になってほしくない」ということです。



【上】志成館では何度も登場している東京大学の名物教授上野千鶴子氏の「毎日新聞」での記事です



【左】今回（に限らず）のオリンピックの失敗の原因は「かつて普仏戦争（プロシア=現在のドイツとフランスの戦争）の厳しい時代に育ったケーベルタン男爵の平和への渴望という理念」を真剣に考えないで、「スポンサー企業がどのようにしてオリンピック自体の事業で儲け、そのあとでオリンピックを利用した宣伝を通じてどれだけお金儲けをすることができるか」だけを優先しており、その結果として、オリンピックに関わる人たちはそもそもが「お金」「売り上げ」にしか興味がない強欲で愚かな人たちになっているからなのです。自分の知名度を高めようとするだけの政治家の醜い姿、企業の応援に悪乗りしたいじめや差別を自慢するような単なる流行の先端にいるだけの浅はかな企画家たちが跋扈（ばっこ=力を他者に見せつけながら行動すること）するオリンピックになってしまっているのです。

おそらくあなた達の「体育」の教科書には載っているはずですので、もう一度近代オリンピックの創始者であるケーベルタン男爵の「平和」という理念を取り戻してください。オリンピックは、開催国の権威の発揚や、優勝者をヒーローやヒロインにしたて、その人を宣伝に使う、自分の会社の製品の価値を高めてもらい、そして商品を買ってもらうためにあるのではないのです。「参加する過程に意義がある」=「スポーツを通じて心身を向上させ、更には文化や国籍などの様々な差異を超え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって理解しあうことで、平和でより良い世界の現実に貢献する」という「理念」をもっと大切にしましょう。そうしないと「アマチュアリズム」をもとにして頑張っている選手が可愛そうですよね。とはいっても選手の中にもお金儲け主義に染まっている人たちがたくさんいます。(泣)。



